

ののいち創生総合戦略 概要（暫定版：案）

長期ビジョン

【長期ビジョン暫定版案から】平成 47（2035）年から平成 52（2040）年をピークとして、人口減少に転じる。
 年少人口は一定水準を維持するが、平成 22（2010）年に老年人口の割合が年少人口の割合を超え、以降、その差が拡大していく。
 生産年齢人口は、平成 42（2030）年をピークに減少に転じる。
 老年人口は、平成 52（2040）年に現在の約 2 倍（28.2%）に増加する。
 自然動態については、増加幅は縮小傾向にあるものの、出生者数が死亡者数を上回る状況が続き、増加傾向が継続する。
 社会動態については、転出者数が転入者数を超える傾向が見受けられたが、市制施行（平成 23（2011）年）以降、転入者超過傾向が見られ、人口の増加傾向にあると考えられる。
 合計特殊出生率は 1.69 であり、日本の合計特殊出生率 1.38、石川県の合計特殊出生率 1.46 を大きく上回っている状況にある。（厚生労働省 e-Stat 人口動態保健所・市区町村別統計 人口動態統計特殊報告 平成 20 年～平成 24 年）
 4 年制大学が立地することから、男性の大学卒業時の転出が多く、また、30 代と乳幼児の年代の転出傾向が見受けられる。

産業構造については、
分析作業中です

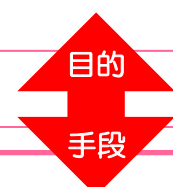
計画期間：平成 27 年度（策定の日）から平成 32 年 3 月 31 日まで

（仮）野々市の将来の姿を展望し、地域経済の拡大と持続可能な人口構造を維持する。

基本目標

施策目標

施策パッケージ



目的

手段

「しごと」と「ひと」の好循環づくり

しごとを創る

～産業・雇用～

新たな仕事や雇用を生み出し、人口流出を抑える

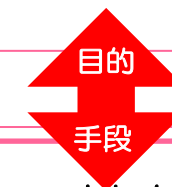


目的

手段

ひとの流れを創る

～子育て・定住～

結婚から子育てまでの切れ目のない支援
住み続けたいくなる生活環境を整備

目的

手段

好循環を支えるまちの活性化

まちをつなぐ ひとつつながる

～連携・交流～

近隣自治体や高等教育機関との連携を充実し、多様な連携を推進することで、地域課題を解決

連携

下支え

産業創出系 施策

雇用創出系 施策

子育て（教育）系 施策

定住・移住系 施策

インフラ系 施策

協働・連携系 施策

野々市市の人口構成や将来推計、産業構造等を分析し、具体的な施策を提示します。